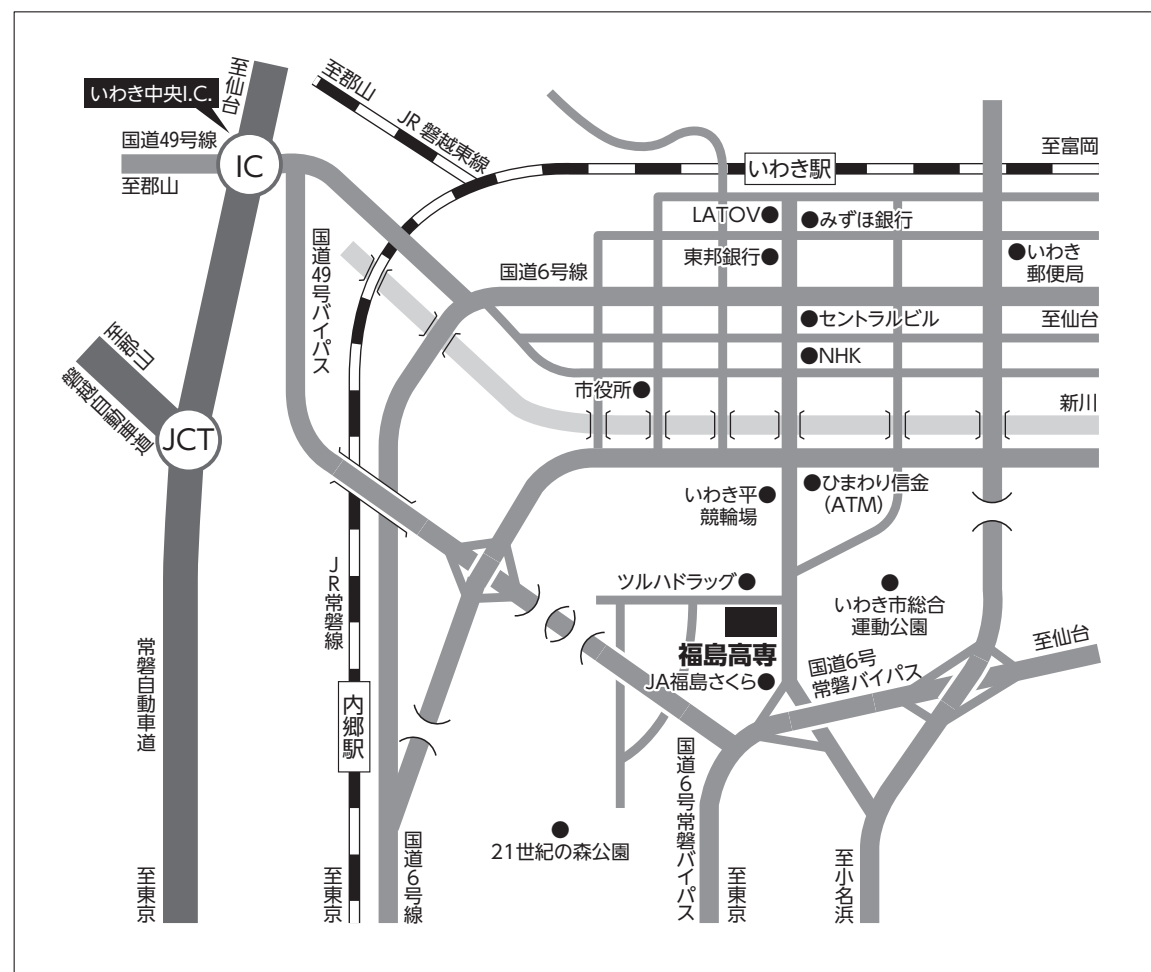
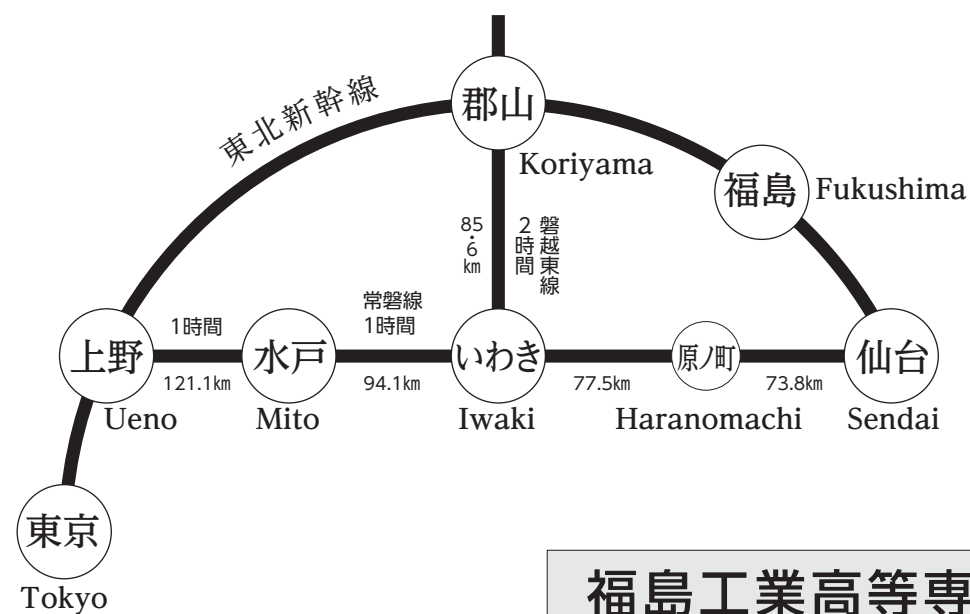


案内図 Location



※ J R 常磐線いわき駅前から新常磐交通バス約10分
 (⑥番のりば鹿島経由小名浜行き又は医療創生大学経由ラパークいわき行きに乗車し高専前で下車)



福島工業高等専門学校

〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30

令和8年度

編入学者選抜募集要項

〔編入学案内〕
 〔出願書類添付〕

主 要 日 程	
出 願 期 間	令和7年7月30日(水)～8月1日(金)
検 査 期 日	令和7年9月2日(火)
合 格 発 表 日	令和7年9月5日(金)
入学確約書提出期限	令和7年10月10日(金)



独立行政法人国立高等専門学校機構

福島工業高等専門学校

〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30
 TEL 0246-46-0721 (学生課入試係)
 FAX 0246-46-0742 (学 生 課)
 E-Mail nyuushi@fukushima-nct.ac.jp
 URL <https://www.fukushima-nct.ac.jp/>

目 次

令和8年度編入学者選抜募集要項

1	アドミッションポリシー（入学者受入方針）	1
2	募集人員および編入学年次	2
3	願書受付	2
4	検査期日等	2
5	合格者発表	2
6	「入学確約書」の提出	2
7	出願資格等	2
8	その他	8
9	入学者選抜に関する合理的配慮の提供に関して	9
10	追試験の受験要件について	9
11	検定料振り込みについての注意	10

編入学案内

1	高等専門学校並びに本校の特色	11
2	本校の教育理念	11
3	本校の学習・教育目標	11
4	福島高専ディプロマポリシー（卒業認定方針）	11
5	養成する人材像	12
6	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	12
7	福島高専カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）	13
8	修業年限	15
9	教育課程	15
10	学生生活	22
11	学校行事	22
12	学費等	22
13	奨学金制度	23
14	入学料および授業料免除制度	23
15	学生寮	24
16	卒業生の進路	24

出願書類

編入学者選抜願書・写真票・受験票・推薦書・検定料納入書	1部
-----------------------------	----

令和8年度 編入学選抜募集要項

1 アドミッションポリシー（入学者受入方針）

アドミッションポリシー（入学者受入方針）は、本校の学習・教育目標を達成できる能力を持った人を入学させるための方針で、次のように定められています。

求める学生像

【全学科】

- (1) 基礎的学習内容を十分に理解し、自ら学ぼうとする人（知識・技能）
- (2) 自ら目標を立て、達成に向けて粘り強く努力する人（思考力・判断力・表現力）
- (3) あらゆる物事に興味を持ち、深く探究する人（思考力・判断力・表現力）
- (4) 創造的な「モノづくり」に強い興味を持っている人（主体性・協働）
- (5) しっかりしたモラルを持ち、まわりの人たちを尊重する人（主体性・協働）

【機械システム工学科】

- (1) ロボット技術や機械の仕組みに興味があり、アイデアを形にしたい人
- (2) 環境にやさしいエネルギー技術に関心のある人
- (3) モノづくりの知識と技術を身に付けて、将来、地域の発展に貢献したい人

【電気電子システム工学科】

- (1) ロボット制御技術、エネルギー技術、情報通信技術に興味があり、将来、その技術者として社会に貢献したい人
- (2) 電気回路やコンピュータ、センサなどを駆使して、様々なシステムをつくりあげたい人
- (3) 電気・電子・情報について学んだ知識を応用して、自分のアイデアを形にしたい人
- (4) 電気電子技術をベースとして、農林水産業、サービス業など様々な業種に関心を持ち、これらの産業を活性化したいと考えている人

【化学・バイオ工学科】

- (1) 化学やバイオテクノロジーの知識と技術を身につけて、将来、その技術者として地域・社会に貢献したい人
- (2) 地球に優しい化学技術や新素材をつくり、環境問題の解決、持続可能な社会の構築を目指したい人
- (3) 学んだ化学バイオ技術を、農林水産資源の生産・管理や有効活用に役立てたいと考える人

【都市システム工学科】

- (1) 自然環境と調和した建設技術に興味を持っている人
- (2) 道路・橋・港など建設構造物の維持管理に興味を持っている人
- (3) 災害に負けない安全なまちづくりに貢献したい人

【ビジネスコミュニケーション学科】

- (1) 社会・経済のしくみや動きに広く関心のある人
- (2) 外国語によるコミュニケーション能力を高めて、グローバルに活躍したい人
- (3) 情報リテラシーを身につけて、高度情報化社会で活躍したい人
- (4) 地球環境に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献したい人

2 募集人員および編入学年次

学 科	募 集 人 員	編入学年次
機 械 シ ス テ ム 工 学 科	各 若 干 名	第 4 学 年
電 気 電 子 シ ス テ ム 工 学 科		
化 学 ・ バ イ オ 工 学 科		
都 市 シ ス テ ム 工 学 科		
ビジネスコミュニケーション学科		

3 願書受付

- (1) 受付期間 令和7年7月30日（水）～8月1日（金）
（郵送の場合は8月1日（金）16時必着とします）
- (2) 受付時間 9時～16時（12時～13時は除きます）
- (3) 受付場所 福島工業高等専門学校 学生課入試係
〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30
T E L 0246-46-0721

4 検査期日等

- (1) 検査期日 令和7年9月2日（火）
- (2) 検査会場 福島工業高等専門学校

5 合格者発表

- (1) 発表日 令和7年9月5日（金）
- (2) 方 法 合格者本人および出身（在籍）学校長には、合格者名等を文書で通知します。また、令和7年9月5日（金）10時以降に本校ホームページにも掲載します。電話等による問い合わせはご遠慮ください。

6 「入学確約書」の提出

合格者の入学意思確認等のため、「入学確約書」を下記期日までに提出してください。
令和7年10月10日（金）

7 出願資格等

各学科毎に試験実施内容・出願資格が異なりますので、志望学科の各項目をよく確認して出願をしてください。

7.1 出願資格

【機械システム工学科】

次の(1)～(3)に該当し、在籍高等学校長が人物・学力ともに優秀であると認めて推薦する者で、合格後、入学を確約できる者としてします。

- (1) 高等学校，中等教育学校を令和8年3月卒業見込みの者
- (2) 以下の条件を全て満たす者
 - ① 第1学年から第3学年1学期までの全科目の評定平均が5段階評価で4.5以上である者
 - ② 学科（クラス）内席次が上位10%以内である者
 - ③ 第2学年および第3学年第1学期において，各科目の評定に1または2がない者
- (3) 高等学校の機械科，電子機械科，機械システム科およびこれに準ずる学科に在籍の者

【電気電子システム工学科】

次の(1)と(2)に該当し、在籍高等学校長が人物・学力ともに優秀であると認めて推薦する者で、合格後、入学を確約できる者としてします。

また、高等学校の所属学科は問いません。

- (1) 高等学校，中等教育学校を令和8年3月卒業見込みの者
- (2) 以下の条件を全て満たす者
 - ① 第1学年から第3学年1学期までの全科目の評定平均が5段階評価で4.5以上である者
 - ② 学科（クラス）内席次が上位10%以内である者
 - ③ 第2学年および第3学年第1学期において，各科目の評定に1または2がない者

【化学・バイオ工学科】 【都市システム工学科】

次の(1)～(3)のいずれかに該当する者としてします。なお，(1)に該当するものは第2学年および第3学年第1学期において，各科目の評定に1または2がない者としてします。

また，高等学校の所属学科は問いません。

- (1) 高等学校，中等教育学校を卒業した者または令和8年3月卒業見込みの者
- (2) 高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者

【ビジネスコミュニケーション学科】

次の(1)～(3)のいずれかに該当し，かつ(4)の条件を満たす者としてします。

なお，(1)に該当するものは第2学年および第3学年第1学期において，各科目の評定に1または2がない者としてします。

また，高等学校の所属学科は問いません。

- (1) 高等学校，中等教育学校を卒業した者または令和8年3月卒業見込みの者
- (2) 高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者
- (4) ア．日商簿記2級以上，イ．英検準1級以上またTOEIC600点以上，
ウ．数検2級以上，エ．基本情報技術者試験合格以上（ITパスポート試験は不可）
ア～エのうちいずれかの資格を所持している者

7.2 出願書類等【全学科共通】

(1) 出願書類等

志願者は、次の書類のうち、「(2)学科別提出必要書類」に定める必要な書類等を取りまとめて提出してください。提出の際、機械システム工学科と電気電子システム工学科に出願する受験生は在籍学校長を経て提出してください。

なお、書類を郵送する場合は、封筒の表に「**編入学者選抜願書在中**」と記載し、簡易書留郵便としてください。

① 編入学者選抜願書	本校所定の用紙に志願者が必要事項を記入したもの。
② 受 験 票	本校所定の用紙に志願者が必要事項を記入したもの。
③ 検 定 料 納 入 書 (16,500円)	本校所定の「検定料納入書」に必要事項を記入の上、金融機関から振り込み、「検定料納入書」(高専提出用)を出願書類に同封してください。 なお、A T M (現金自動預払機)、携帯電話およびパソコン等からの振り込みはできませんので、ご注意ください(郵便局およびゆうちょ銀行から振り込む場合は10頁「検定料振り込みについての注意」をご覧ください)。また、既納の検定料は以下の場合以外、いかなる理由があっても返還しません。 ・検定料を納付したが出願しなかった場合 ・検定料を誤って二重に払い込んだ場合
④ 写 真 票	本校所定の用紙に3ヶ月以内に撮影した上半身、正面脱帽の写真(4.5cm×3.5cm)を貼付し、所定の事項を記入したもの。
⑤ 返 信 用 封 筒 (受験票送付用)	志願者の住所・氏名を記入し、410円切手(速達郵便分)を貼付したもの(出願書類を持参する場合は不要です)。
⑥ 調 査 書	出身(在籍)学校所定の用紙に出身(在籍)学校長が記載したもの。
⑦ 卒業証明書または 卒業見込証明書	出身(在籍)学校所定の用紙に出身(在籍)学校長が記載したもの。
⑧ 高 等 学 校 卒 業 程 度 認 定 試 験 合 格 証 明 書 お よ び 合 格 成 績 証 明 書	文部科学大臣が証明したもの。
⑨ 推 薦 書 (機械システム工学科・ 電気電子システム工学 科出願者は必要)	本校所定の用紙に在籍学校長が記載したもの。
⑩ 資格に関する証明 書等 (ビジネスコミュニケー ション学科出願者は 必要)	ア. 日商簿記2級以上、イ. 英検準1級以上またはTOEIC600点以上、 ウ. 数検2級以上、エ. 基本情報技術者試験合格以上(ITパスポート 試験は不可)のいずれかの資格の原本及び写しを提出してください。 原本は確認後返却します。

(2) 学科別提出必要書類

【機械システム工学科】 【電気電子システム工学科】 (注) 在籍学校長を経て提出してください。

出 願 資 格	提 出 書 類
① 高等学校卒業見込者	(1) の 「出願書類等」 の ①～⑦, ⑨

【化学・バイオ工学科】 【都市システム工学科】

出 願 資 格	提 出 書 類
① 高等学校卒業または卒業見込者	(1) の 「出願書類等」 の ①～⑦
② 高等学校卒業程度認定試験合格者	〃 ①～⑤, ⑧
③ 外国で 12 年の課程修了者	〃 ①～⑤, ⑦

【ビジネスコミュニケーション学科】

出 願 資 格	提 出 書 類
① 高等学校卒業または卒業見込者	(1) の 「出願書類等」 の ①～⑦, ⑩
② 高等学校卒業程度認定試験合格者	〃 ①～⑤, ⑧, ⑩
③ 外国で 12 年の課程修了者	〃 ①～⑤, ⑦, ⑩

7.3 検査の内容、時間および出題範囲等

(1) 検査等の内容および時間

志望学科により、検査内容および検査等の時間が異なります。

詳しくは下記を参照してください。

【機械システム工学科】

◎検査内容と開始時間：①面接（口頭試問を含む）

（一人30分程度） 9：00～

【電気電子システム工学科】

◎検査内容と開始時間：①筆記試験（専門科目） 9：00～9：50

②面接（一人20分程度） 10：10～

◎筆記試験の詳細内容

科目名	出題範囲		
専門科目 (電気理論)	①電気数学 ④電磁誘導	②直流回路 ⑤静電気	③電流と磁気 ⑥交流回路

【化学・バイオ工学科】

◎検査内容と開始時間：①筆記試験（英語） 9：00～10：10

②筆記試験（数学） 10：30～12：00

③筆記試験（専門科目） 13：00～14：30

④面接（一人10分程度） 14：50～

◎筆記試験の詳細内容

科目名	出題範囲	
英 語	英語コミュニケーションⅠ	全 範 囲
	英語コミュニケーションⅡ	
数 学	数 学 I	全 範 囲
	数 学 A	
	数 学 II	
	数 学 B	数 列
	数 学 C	ベクトル
専門科目 (化学基礎・化学)	化学基礎・化学の全範囲	

【都市システム工学科】

◎検査内容と開始時間：①筆記試験（英語） 9：00～10：10

②筆記試験（数学） 10：30～12：00

③筆記試験（専門科目） 13：00～14：30

④面接（一人10分程度） 14：50～

◎筆記試験の詳細内容

科目名	出題範囲	
英 語	英語コミュニケーションⅠ	全 範 囲
	英語コミュニケーションⅡ	
数 学	数 学 I	全 範 囲
	数 学 A	
	数 学 II	
	数 学 B	数 列
	数 学 C	ベクトル
専門科目 (構造力学)	①力のつりあい ②部材断面の性質 ③静定ばり（反力、内力、影響線、曲げ応力） ④柱 ⑤トラス	

【ビジネスコミュニケーション学科】

- ◎検査内容と開始時間：① 筆記試験（専門科目） 9：00～10：30
② 面接（口頭試問を含む）
（一人30分程度） 10：50～

◎筆記試験の詳細内容

科 目 名	出 題 範 囲
専門科目（小論文）	社会に関するテーマ (1,200字以上 1,600字以内)

7.4 選抜の方法

入学者の選抜は、筆記試験や面接の結果、出身（在籍）学校長から提出された調査書の内容等を総合して行います。

7.5 注意事項

(1) 出願上の注意

- ① 出願書類受理後は、記載事項の変更はできませんのでご注意ください。
また、出願書類は返還しませんのでご注意ください。
- ② 出願書類に不備のあるものは、受理できません。
- ③ 出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学後においても入学許可を取り消すことがあります。

(2) 受験上の注意

- ① 検査当日は受験票、筆記用具を持参してください。
- ② 受験のため宿泊を必要とする場合は、各自で準備してください。
- ③ 「受験者心得」は受験票の裏面に記載していますのでご覧ください。
なお、「不正行為」に関する注意事項は、本校ホームページに掲載していますので、必ず確認してください。

(3) 「推薦書」記入上の注意（機械システム工学科・電気電子システム工学科に出願の場合）

「推薦書」における「学科（クラス）内席次」の欄には、志願者が所属する学科（クラス）全体の人数と志願者の第3学年第1学期の席次を記入してください。なお、2学期制の高等学校においては、第2学年末の席次を記入してください。

8 その他

- (1) 入学後、本校学生寮への入寮を希望する場合は、選考のうえ許可されることがあります。
- (2) 入学志願者から提出された入学願書や調査書等に記載されている情報及び選抜に用いた試験成績・評価といった入学者選抜を通じて取得した個人情報、入学者選抜の資料として利用するとともに入学後、次の目的以外には利用することはありません。
 - ① 学籍の管理に関する業務
 - ② 教育及び教務上で必要な業務（修学指導、学生指導、課外活動、奨学金に関すること等）
 - ③ 学生本人・保護者の皆様への連絡、各種書類の発送及びその他これに付随する業務
 - ④ 各種証明書に関する業務
 - ⑤ 健康管理に関する業務
 - ⑥ 授業料に関する業務
 - ⑦ 寮生の管理・指導に関する業務
 - ⑧ 式典及び広報活動（学校案内、定期刊行物及び本校ホームページ等）に関する業務（写真及び映像等の情報を含む）
 - ⑨ 後援会・同窓会の入退会に関する連絡調整業務
- (3) 出願書類の請求及び編入学に関する問い合わせについては、下記にご連絡ください。

福島工業高等専門学校 学生課入試係
〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30
T E L 0246-46-0721
F A X 0246-46-0742
E-Mail nyuushi@fukushima-nct.ac.jp

お知らせ

令和9年度編入学者試験について

令和9年度入学（令和8年度実施）の編入学試験については、入試実施方法が変わります。
詳細は、令和9年度編入学者募集要項及びHPで確認してください。

9 入学者選抜に関する合理的配慮の提供に関して

福島工業高等専門学校では、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針」及び、「独立行政法人国立高等専門学校機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領」に則り、障害等による支援ニーズのある学生に対して、受験上または修学上の合理的配慮の提供を行っています。

入学者選抜において障害等を理由とした合理的配慮の提供を希望する者は、早めに福島高専学生課入試係までご相談ください。なお、合理的配慮の提供には準備に時間がかかることもあるため、入学願書提出期限の一个月前にあたる**令和7年7月1日**を過ぎてからの相談及び申請では準備期間が短くなり、希望する合理的配慮を受けられず、安心して試験を受けられなくなる可能性があることに注意してください。

必要に応じて、生徒、生徒の保護者及び、在籍する学校関係者に対して、相談された内容について質問する場合がありますが、合理的配慮に関する申請及び問い合わせ内容は入学者選抜の可否判定には一切影響ありません。

入試の公平性を担保するため、合理的配慮提供の根拠となる資料の提出を求める場合があります。必要となる根拠資料に関しては、文部科学省「障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第二次まとめ）」によって示されている、1) 障害者手帳の種別・等級・区分認定、2) 適切な医学的診断基準に基づいた診断書、3) 標準化された心理検査等の結果、4) 専門家の所見、5) 高校、特別支援学校高等部等入学前の支援状況に関する資料、6) 本人が自らの障害の状況を客観的に把握・分析した説明資料等が該当します。

※根拠資料に関しては提出の要不要に関しても入試担当窓口までご相談ください。ご提出いただく根拠資料としての要件を満たしているかどうか、担当係において確認いたします。満たしていない場合は、その理由を明示したうえで再提出を求めることがあります。

(お願い)

入学後に修学上の合理的配慮が必要な場合には、合理的配慮提供のための準備を十分に行うために、出願前の可能な限り早い段階で「事前相談」を受けられることをお勧めします。入試後、または入学後に合理的配慮に関して初めて申請なされると修学に必要な支援を十分に受けられなくなる可能性があります。なお、事前相談を受けられても、入学者選抜の可否判定には一切影響ありません。

10 追試験の受験要件について

編入学志願者が、インフルエンザまたは新型コロナウイルス感染症等の感染症、もしくは月経随伴症状等の体調不良を理由として本試験を受験できなかった場合の対応として、追試験を実施します。

上記各理由に該当し追試験を希望する場合には、本校学生課入試係に申し出てください。

11 検定料振り込みについての注意

検定料を郵便局（ゆうちょ銀行）から振り込む場合は次のような条件がありますので、ご利用の際はご注意ください。

- (1) ゆうちょ銀行から検定料を振り込む場合は現金での振り込みはできず、口座からの振り込みのみ可能となっていますのでご注意ください。ご利用の際は、「通帳とお届け印」または「キャッシュカード」が必要となります。
- (2) ゆうちょ銀行から振り込む場合は、募集要項に添付されている本校所定の振込依頼書は使用できません。窓口で、ゆうちょ銀行専用の振込依頼書を受け取り、必要事項を記入して窓口から振り込みください。振り込みの際は、振り込み先を確認しますので、本校所定の振込依頼書も持参ください。なお、振り込みにかかる手数料はご負担ください。
- (3) 振り込み後は、窓口で「振替払出請求書預金口座振替による振込受付書」（以下、「振込受付書」という）を受領してください。また、出願の際にはこの振込受付書を出願書類に同封してください。なお、振込受付書はコピーを取り、コピーは大切に保管してください。
- (4) 検定料の振り込みは、ゆうちょ銀行ＡＴＭ（現金自動預払機）からは行わないでください。

○ゆうちょ銀行専用の振込依頼書（サンプル）

[illegible]

左下「ご依頼人」の「お名前」欄
に記入の際は、受験者氏名の
前に「HE」を付けてください。

福島高専には、「お客様控え」を提出してください。

編 入 学 案 内

1 高等専門学校並びに本校の特色

高等専門学校は、優れた専門技術者の養成を目的として、1962年に創設された高等教育機関です。高専制度の特色は、5年間の一貫教育により、優れた人材を育成する完成教育にあり、卒業生には「準学士」の称号が与えられます。また、卒業後、更に高度な専門分野の勉学を志す人のためには高専専攻科への進学または大学3年次への編入学により、「学士」となる道もあります。

本校では、実践的な技術の修得を重視し、基礎となる一般科目と実験・実習を含めた専門科目を効率よく組み合わせることにより教育効果をあげています。加えて特別活動やクラブ活動にも力を入れ、豊かな教養と人間力の育成をめざしています。

2 本校の教育理念

本校の教育理念は次のとおりです。

- 広く豊かな教養と人間力の育成
- 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
- 固有才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

3 本校の学習・教育目標

本校では以下に示す学習・教育目標を設定しています。

- (A) 地球的視野から人や社会や環境に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
- (B) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
- (C) 工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
- (D) イノベーションに即応するために、情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力を身につける。
- (E) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的实践力を身につける。
- (F) 情報技術を活用して、グローバルなコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

4 福島高専ディプロマポリシー（卒業認定方針）

本校では、以下の「養成する人材像」に示す人材を育成する教育内容を学習し、「卒業時に身につけるべき資質能力」を身に付け、所定の単位を修得し、卒業要件を満たした学生に対して卒業を認定します。

5 養成する人材像

(1) 工学系学科

- ① 十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるエンジニア
- ② イノベーションに即応するために、問題解決のみならず課題探究できるエンジニア
- ③ モノづくりと環境保全の調和に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できるエンジニア
- ④ グローバルなコミュニケーション能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的エンジニア

(2) ビジネス系学科

- ① 自己実現ができるビジネス・スペシャリスト
- ② グローバルなコミュニケーション能力を有するビジネス・スペシャリスト
- ③ 論理的思考に優れたビジネス・スペシャリスト
- ④ 長期的な視野をもち、持続可能な社会の実現に貢献するビジネス・スペシャリスト

<準学士課程（本科）の各学科で養成する人材像>

【機械システム工学科】

機械工学の専門知識を持って他分野の技術も取り入れることで、高度化するシステムに対処し、常に発展する新しいモノづくりを担うことができる機械技術者を育成する。

【電気電子システム工学科】

電気・電子・情報の技術を応用することでシステムを構築し、産業界の多様な問題を解決できるクリエイティブな技術者を育成する。

【化学・バイオ工学科】

持続可能な社会を実現するために、物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、生物化学、化学工学などの専門分野の基礎知識を身につけ、化学製品、材料、食品など物質生産の分野において幅広く活躍できる化学技術者を育成する。

【都市システム工学科】

持続可能な建設技術を基礎に、社会基盤施設の維持・管理分野や自然災害に対する防災・減災分野で活躍できるシビルエンジニアを育成する。

【ビジネスコミュニケーション学科】

社会に対して広く関心を持ち、進展するグローバル化に対応できるリテラシー（語学や情報など）を身につけるとともに、環境問題に配慮し持続可能な社会に貢献できる人材を育成する。

6 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力

準学士課程

- (1) 豊かな教養と国際的な感覚を有し、継続的な自己学習ができる人間性
- (2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力
- (3) モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力
- (4) 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力
- (5) 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献できる能力

7 福島高専カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

本校では、「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を身につけるため、次のような教育課程の編成方針、および成績評価基準に基づいて教育を実施します。

○編成方針

- (1) 準学士課程においては、くさび型*の構成であり、「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」を身に付けるための必修科目、選択科目を適切に設定した、5年一貫の体系的な教育課程を編成する。
※くさび型の教育課程：低学年次においては一般科目を多く配置し、学年の進行に伴い専門科目を多く配置する教育課程
- (2) 「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を深化させるため、高学年、および専攻科においては、モノづくり、校外での体験、問題解決能力の養成等に関する科目を開設する。
- (3) 教育課程を編成するに当たっては、全学年で基本的な知識・技能の修得、それらを応用し思考、判断する能力の修得、それらを自発的に学習できる態度・志向性を修得できるように配慮して、科目配置や科目毎の授業内容や授業計画を設計しシラバスに記載し、シラバスにしたがい教育を実施する。

○成績評価基準

- (1) 科目の成績評価は、定期試験の成績および平素の成績をもとに行う。評価方法はシラバスに記載し、記載された評価方法に基づいて公平に成績評価を実施する。
- (2) 講義科目では主に定期試験等の筆記試験等により、演習科目では筆記試験やレポート等を総合的に勘案し、さらに、実験・実習科目ではレポートや授業態度等により評価する。
- (3) 科目の成績評価結果は100点法で行い、60点以上を合格とする。
- (4) 各科目について、成績評価が60点以上の場合は単位の修得を認定する。

○準学士課程 学科ごとの教育課程編成方針

ディプロマポリシーで掲げた能力を育成するために、各学科では、以下の科目群を系統的に編成する。

【機械システム工学科】

- (1) 豊かな教養と国際的感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に力学系、材料・加工系、機構・制御系を基盤とした専門基礎科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように、中学年次から高学年次に工学実験、工学セミナー、卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (4) 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように、中学年次から高学年次に校外実習、卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように、低学年次から高学年次に復興関連科目を設け、集中講義による学修を実施する。

【電気電子システム工学科】

- (1) 豊かな教養と国際的感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。

- (2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に電力系、電気・電子系、情報系を基盤とした専門基礎科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように、中学年次から高学年次に工学実験、工学セミナー、卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (4) 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように、中学年次から高学年次に校外実習、卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように、低学年次から高学年次に復興関連科目を設け、集中講義による学修を実施する。

【化学・バイオ工学科】

- (1) 豊かな教養と国際的感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に応用化学系、生物工学系を基盤とした専門基礎科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように、中学年次から高学年次に工学実験、工学セミナー、卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (4) 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように、中学年次から高学年次に校外実習、卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように、低学年次から高学年次に復興関連科目を設け、集中講義による学修を実施する。

【都市システム工学科】

- (1) 豊かな教養と国際的感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に力学系、環境系、計画系を基盤とした専門基礎科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように、中学年次から高学年次に工学実験、工学セミナー、卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (4) 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように、中学年次から高学年次に校外実習、卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように、低学年次から高学年次に復興関連科目を設け、集中講義による学修を実施する。

【ビジネスコミュニケーション学科】

- (1) 豊かな教養と国際的感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。

- (2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に経済・経営・会計系，数理・情報系，語学・人文系を基盤とした専門基礎科目を設け，講義を主とした学修を実施する。
- (3) モノづくりやデザイン能力を有し，広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように，中学年次から高学年次にセミナー，卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け，実験・実習を主とした学修を実施する。
- (4) 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように，中学年次から高学年次に校外実習，卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け，実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想に協力し，地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように，低学年次から高学年次に復興関連科目を設け，集中講義による学修を実施する。

8 修業年限

第4，第5学年の2ヶ年

9 教育課程

授業科目には履修単位科目と学修単位科目（単位数に＊のついているもの）があります。履修単位科目は，30 単位時間（1 単位時間は標準 50 分）の履修をもって 1 単位とします。

学修単位科目は 45 時間（1 単位時間は標準 50 分）の学修で 1 単位としますが，学校での授業は 15 時間から 45 時間の範囲で行います。その範囲外については，自学自習で対応します。

〈参 考〉

【一般科目】

(機械システム工学科, 電気電子システム工学科, 化学・バイオ工学科, 都市システム工学科共通)

令和5年度以降入学者に適用

授 業 科 目			学 年 別		備 考
			4	5	
必修科目	数 学	数 学 IV	4*		
	外 国 語	英 語 IV	4*		
	人 文 社 会	技 術 者 倫 理		1	
	開 設 単 位 小 計		8	1	
選択科目	外 国 語	英 語 V		2	
	国 語	日 本 語 表 現 法	2*		
	人 文 社 会	経 済 学 基 礎	1		
		法 学 基 礎	1		
		産 業 経 済 史		1	
	グ ロ ー バ ル 研 修		(1)		
	開 設 単 位 小 計		4(1)	3(1)	
開 設 単 位 合 計		12(1)	4(1)		
修 得 可 能 単 位 数		12(1)	4(1)		

(注) *印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)

() の数字は開講期を指定しない単位で外数

【一般科目】

ビジネスコミュニケーション学科

令和5年度以降入学者に適用

授 業 科 目			学 年 別		備 考
			4	5	
必修科目	英 語	英 語 IV	4*		
	人 文 社 会	法 学	2		
		ミ ク ロ 経 済 学	2		
		技 術 者 倫 理		1	
	開 設 単 位 小 計		8	1	
選択科目	英 語	英 語 特 論 II	2		
		英 語 V		2	
	国 語	文 学	1		
	人 文 社 会	産 業 経 済 史		1	
	グ ロ ー バ ル 研 修		(1)		
	開 設 単 位 小 計		3(1)	3(1)	
開 設 単 位 合 計			11(1)	4(1)	
修 得 可 能 単 位 数			11(1)	4(1)	

(注) *印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)

() の数字は開講期を指定しない単位で外数

〈参 考〉

専門科目（機械システム工学科） 令和5年度以降入学者に適用

授業科目		学 年 別		備 考
		4	5	
必修科目	設計製図Ⅱ	2 *		
	応用設計製図		4 *	
	創作実習	2 *		
	工学実験	4 *	4 *	
	工学セミナー	2		
	卒業研究		9	
	応用物理	4 *		
	材料力学Ⅱ	1		
	熱力学	2		
	水力学	2		
	機械力学Ⅰ	1		
	環境工学	1 *		
	ロボット基礎	2		
	校外実習	(1)		
	数学Ⅴ		2 *	
	伝熱工学		2	
	制御工学		2	
	知的財産権		1	
	開設単位小計	23(1)	24(1)	
選択科目	物理学特論	1		
	情報処理演習	2 *		
	工業英語	1 *		
	メカトロニクス	1 *		
	CAD, CAM	1 *		
	材料強度学	1 *		
	経営学概論	1		
	生産工学		1 *	
	ロボット工学		1 *	
	計測工学		1 *	
	塑性加工学		1 *	
	機械力学Ⅱ		1 *	
	流体力学		1 *	
	エネルギー工学		1 *	
	エネルギー機械		1 *	
	シーケンス制御		1 *	
	ロボット制御工学		1 *	
	AI演習		1	集中講義
	アントレプレナーシップ実践	1 *		
	廃炉工学	1		集中講義
	防災学		2 *	
	チャレンジセミナー	(1)		
	開設単位小計	10(1)	13(1)	
専門科目	開設単位合計	33(2)	37(2)	
	修得可能単位数	33(2)	37(2)	
一般科目	開設単位合計	12(1)	4(1)	
	修得可能単位数	12(1)	4(1)	
合 計	開設単位合計	45(3)	41(3)	
	修得可能単位数	45(3)	41(3)	

(注) *印は学修単位（高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位）

()の数字は開講期を指定しない単位で外数

〈参 考〉

専門科目(電気電子システム工学科) 令和5年度以降入学者に適用

授 業 科 目		学 年 別		備 考
		4	5	
必修科目	◎ 電気電子システム工学実験	3 *	2 *	
	◎ 電気機器Ⅱ	2		
	◎ 電気磁気学Ⅱ	2		
	◎ 電気回路Ⅱ	2		
	◎ パワーエレクトロニクス	1		
	○ 電子回路Ⅱ	2 *		
	○ 電子工学Ⅰ	2 *		
	◎ 制御工学		1 *	
	◎ 電力工学		2	
	◎ 電力システム工学		2 *	
	○ 電気電子材料工学		2	
	○ 電子工学Ⅱ		1 *	
	創作実習	2 *		
	電子回路設計	1		
	工学セミナー	1		
	応用物理	4 *		
	工業英語Ⅰ	1		
	校外実習	(1)		
	卒業研究		8	
	知的財産権		1	
	工業英語Ⅱ		1	
	数学Ⅴ		2 *	
開設単位小計		23(1)	22(1)	
選択科目	◎ 電気法規		1	
	○ 高電圧工学		1	
	○ 計算機工学		2	
	情報工学Ⅲ	2 *		
	デジタル回路Ⅱ	1		
	通信工学Ⅰ	1		
	物理学特論	1		
	機械工学概論	2		
	経営学概論	1		
	電力情報		2 *	
	シーケンス制御		1 *	
	ロボット制御工学		1 *	
	コンピュータネットワーク		1 *	
	通信工学Ⅱ		1 *	
	環境工学		1	
	AI演習		1	集中講義
	アントレプレナーシップ実践	1 *		
	廃炉工学	1		集中講義
	防災学		2 *	
	チャレンジセミナー	(1)		
開設単位小計		10(1)	14(1)	
専門科目	開設単位合計	33(2)	36(2)	
	修得可能単位数	33(2)	36(2)	
一般科目	開設単位合計	12(1)	4(1)	
	修得可能単位数	12(1)	4(1)	
合 計	開設単位合計	45(3)	40(3)	
	修得可能単位数	45(3)	40(3)	

(注) ◎印は第2種電気主任技術者資格取得のための必修得科目, ○印は関係科目
 *印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)
 ()の数字は開講期を指定しない単位で外数

〈参 考〉

専門科目(化学・バイオ工学科)

令和5年度以降入学者に適用

授 業 科 目		学 年 別		備 考
		4	5	
必 修 科 目	化学・バイオ工学基礎実験Ⅱ	2		
	化学・バイオ工学実験	2		
	化学・バイオ工学セミナー	1		
	情報処理Ⅱ	1		
	卒業研究		10	
	物理化学Ⅰ	2		
	無機化学Ⅰ	2		
	有機化学Ⅰ	2		
	生物化学Ⅰ	2		
	化学工学	2		
	微生物工学	2		
	機器分析Ⅰ	1		
	機器分析Ⅱ	1		
	環境科学Ⅰ	2		
	応用物理	4 *		
	数学Ⅴ		2 *	
	高分子化学		2 *	
	開 設 単 位 小 計	26	14	
選 択 科 目	校外実習	(1)		
	物理学特論	1		
	経営学概論	1		
	物理化学Ⅱ		2 *	
	物理化学Ⅲ		2 *	
	無機化学Ⅱ		2 *	
	有機化学Ⅱ		2 *	
	生物化学Ⅱ		2 *	
	生物化学Ⅲ		2 *	
	化学プロセス概論		2 *	
	環境科学Ⅱ		2 *	
	生物資源化学		2 *	
	機械工学概論		1	
	電子工学概論		1	
	知的財産権		1	
	AI演習		1	集中講義
	アントレプレナー実践	1 *		
	廃炉工学	1		集中講義
	防災学		2 *	
	チャレンジセミナー	(1)		
	開 設 単 位 小 計	4(2)	24(2)	
専 門 科 目	開 設 単 位 合 計	30(2)	38(2)	
	修 得 可 能 単 位 数	30(2)	38(2)	
一 般 科 目	開 設 単 位 合 計	12(1)	4(1)	
	修 得 可 能 単 位 数	12(1)	4(1)	
合 計	開 設 単 位 合 計	42(3)	42(3)	
	修 得 可 能 単 位 数	42(3)	42(3)	

(注) *印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)

()の数字は開講期を指定しない単位で外数

〈参 考〉

専門科目(都市システム工学科)

令和5年度以降入学者に適用

授業科目			学 年 別		備考	
			4	5		
必修科目		工学実験・演習	3 *	3 *		
		応用物理	4 *			
		土木情報処理Ⅰ	2 *			
		構造力学Ⅲ	2			
		橋梁工学	1			
		コンクリート構造工学	2			
		地盤工学Ⅱ	2 *			
		水理学Ⅱ	2			
		水処理工学Ⅰ	1			
		地域計画	2			
		システム工学	1			
		施工法Ⅰ		1		
		校外実習	(1)			
		土木演習Ⅱ		2 *		
		卒業研究		10		
		数学Ⅴ		2 *		
		応用地盤工学		1		
		環境工学Ⅰ		2 *		
		水処理工学Ⅱ	1			
		交通工学		1		
		工学セミナー	2			
	都市 基盤	維持・管理工学基礎			1	防災・減災系列は選択科目
		コンクリート構造設計演習			2 *	防災・減災系列は選択科目
	防災・ 減災	水防災工学			1	都市基盤系列は選択科目
		防災学			2 *	都市基盤系列は選択科目
開 設 単 位 小 計			25(1)	28(1)		
選択科目		建築法規		2 *		
		土木情報処理Ⅱ		2 *		
		環境工学Ⅱ		1		
		施工法Ⅱ		1		
		技術英語Ⅱ	2 *			
		輸送施設工学		1		
		道路施策概論	1			
		知的財産権		1		
		物理学特論	1			
		経営学概論	1			
		AI演習		1	集中講義	
		アントレプレナーシップ実践	1 *			
		廃炉工学	1		集中講義	
		チャレンジセミナー	(1)			
	開 設 単 位 小 計			7(1)	9(1)	
専 門 科 目		開 設 単 位 合 計	32(2)	37(2)		
		修 得 可 能 単 位 数	32(2)	37(2)		
一 般 科 目		開 設 単 位 合 計	12(1)	4(1)		
		修 得 可 能 単 位 数	12(1)	4(1)		
合 計		開 設 単 位 合 計	44(3)	41(3)		
		修 得 可 能 単 位 数	44(3)	41(3)		

(注) *印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)
()の数字は開講期を指定しない単位で外数

〈参 考〉

専門科目（ビジネスコミュニケーション学科）

令和4年度以降入学者に適用

授 業 科 目		学 年 別		備 考
		4	5	
必修科目	セミナーⅠ	2		
	セミナーⅡ	2		
	校外実習	(1)		
	卒業研究Ⅰ		4	
	卒業研究Ⅱ		8	
	開設単位小計	4(1)	12(1)	
選択科目	Research in English	1		
	Survey of Current Social Events	1		
	情報処理演習A	2 *		
	情報処理演習B	2 *		
	経営情報演習Ⅰ	2 *		
	経営情報演習Ⅱ	2 *		
	線形代数	1		
	数理統計Ⅲ	2 *		
	マクロ経済学Ⅰ	2 *		
	マクロ経済学Ⅱ	2 *		
	開発学	2 *		
	財政学	2 *		
	原価計算	2 *		
	会計理論	1		
	環境科学	1		
	応用数学論	(2)*		
	組織論	(2)*		
	経営戦略論	(2)*		
	国際経営論	(2)*		
	女性労働史	(2)*		
	現代社会特論C		1	
	Business English PracticeⅠ		2 *	
	Business English PracticeⅡ		2 *	
	情報システム演習A		2 *	
	情報システム演習B		2 *	
	国際経済学		2 *	
	共生システム		2 *	
	アントレプレナーシップ実践		1 *	集中講義
	知的財産権		1	
	AI演習		1	集中講義
	廃炉工学	1		集中講義
	防災学		2 *	
	チャレンジセミナー	(1)		
	開設単位小計	26(11)	18(11)	
専門科目	開設単位合計	30(12)	30(12)	
	修得可能単位数	30(12)	30(12)	
一般科目	開設単位合計	11(1)	4(1)	
	修得可能単位数	11(1)	4(1)	
合 計	開設単位合計	41(13)	34(13)	
	修得可能単位数	41(13)	34(13)	

(注) *印は学修単位（高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位）

()の数字は開講期を指定しない単位で外数

10 学生生活

(1) 学生会

学生会は学校の指導のもとに、学生の自発的な活動を通して、その人間形成を助長し、本校の教育目的達成に資することを目的として、次の目標を掲げ活動しています。

- ・学生生活を豊かで楽しく規律正しいものにし、よい校風をつくる。
- ・健全な趣味や豊かな教養を養い、個性の伸長を図る。
- ・心身の健康を助長し、余暇を有効に活用する姿勢を身につける。
- ・集団の活動に積極的に参加することで、自主性を育てるとともに協調性を養う。
- ・学校生活において、自治的態度を養うとともに公民としての資質を向上させる。

(2) 部・サークル

前記目標達成のため、本校では課外活動を大いに奨励しており、学生会事務局の下に次の部・サークルがあります。熱心な活動の成果として各種大会・コンクール・コンテスト等で大いに活躍しており、毎年開催される全国高専体育大会にも大勢の選手を派遣しています。

- ・文化部……写真部、無線通信部、吹奏楽部、美術部、将棋部、茶華道部、演劇部、天文部
- ・体育部……陸上競技部、バスケットボール部、バレーボール部、ソフトテニス部、テニス部、卓球部、柔道部、剣道部、サッカー部、硬式野球部、水泳部、山岳部、空手道部、サイクリング部、ラグビー部、バドミントン部、弓道部、ストリートダンス部
- ・研究部……ロボット技術研究会、エネルギー研究会、ソフトウェア研究会、都市デザイン研究会、ESS&ESD研究会
- ・サークル……分子生物学愛好会、居合道サークル、モノづくりサークル、鐵道愛好会、eスポーツ愛好会、ソフトバレー愛好会、テーブルゲーム愛好会、Civil Doctors NITFC、ソーシャル・クリエーション研究会、イベントサークル、オルタナティブサークル

11 学校行事

1年間の主な学校行事は次のとおりです。

- 4月……入学式、始業式
- 5月……学級懇談会、前期中間試験
- 6月……前期中間試験
- 7月……東北地区高専体育大会、前期期末試験
- 8月……前期期末試験、全国高専体育大会、4年生校外実習、夏季休業
- 9月……全国高専体育大会、夏季休業、編入学試験、校内体育大会
- 10月……保護者個別面談会、高専ロボコン東北大会、全国高専プログラミングコンテスト
- 11月……高専ロボコン全国大会、磐陽祭、後期中間試験
- 12月……後期中間試験、学生と学校との懇談会、全国高専デザコン、冬季休業
- 1月……入学試験（推薦）、全国高専英語プレゼンテーションコンテスト
- 2月……後期期末試験、入学試験（学力・帰国子女）、5年生卒業研究発表会
- 3月……終業式、修了証書授与式、卒業証書授与式、学年末休業

12 学 費 等

入学年度に必要なとする経費は、およそ下記のとおりです。

区 分	金 額	備 考
入 学 料	84,600 円	
授 業 料	234,600 円	
教 科 書 代	約 40,000 円	
諸 会 費 等		
後 援 会 費	16,000 円	入会金・会 費
課 外 活 動 助 成 費	15,000 円	年額
学 生 会 費	9,500 円	入会金・会 費
日本スポーツ振興センター会費	1,550 円	
合 計	約 410,000 円	

13 奨学金制度

学業・人物ともにすぐれ、学資の支弁が困難と認められる者については、申請により日本学生支援機構のほか戸部育英会・関育英会および市町村などからの奨学金が貸与される制度があります。さらに、企業からの特別な奨学金や給付型の奨学金など、様々な条件の奨学金募集があります。

令和2年4月よりスタートした、高等教育の修学支援制度においては、世帯収入に応じた基準で支援額が決まり、授業料等の減免とセットで受けることで、従来よりも支援が充実しています

○奨学金貸与・給付学生数（日本学生支援機構奨学金：令和6年度）

学年別	項目	奨学生数	在籍者数	在籍者数に対する割合
4 年		4 人（貸与） 24 人（給付）	196 人	14 %
5 年		10 人（貸与） 30 人（給付）	193 人	21 %
合 計		68 人	389 人	17 %

奨学金の貸与額は、日本学生支援機構奨学金を例とすると、4年生から5年生に在学する者で自宅通学者は月額20,000円～45,000円、自宅外通学者で月額20,000円～51,000円となっています（第一種奨学金）。ただし、給付奨学金と併給する場合には、給付奨学金の支援区分に応じて、第一種奨学金の貸与月額が調整されますので、ご注意ください。

その他、地方公共団体や民間企業が行う奨学金制度もあります。

14 入学料および授業料免除制度

(1) 入学料免除

入学前1年以内に学資負担者が死亡、または風水害などの災害を受け、入学料納付が非常に困難であるなどの場合は、入学料が免除される制度があります。

(2) 授業料免除

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業成績が優秀と認められる場合、その他やむを得ない事情があると認められる場合は、授業料全額または半額が免除される制度があります。

また、令和2年4月より、日本学生支援機構給付奨学金と授業料減免がセットとなった、高等教育の修学支援制度がスタートしました。

本科4年生以上で、経済的理由または多子世帯該当による減免を希望する学生は、本制度に申請してください。春と秋の年2回募集があります。

15 学 生 寮

(1) 寮のあらまし

本校には学生寮（磐陽寮）が学校の敷地内にあり、男子は原則として、低学年は2名1室、高学年は1～2名1室で入居します。女子は1名1室で入居します。他に食堂、浴場、自習室、談話室、寮監室、事務室などがあります。寮には、平日は日中事務室に事務職員が常駐し、夜間ならびに土・日祝日は寮監（教員）と警備員が宿直し、土・日祝日は警備員が日直として常駐して、寮生会長をはじめ寮生会役員の協力のもとに健康で規律ある共同生活が送れるよう配慮しています。詳しくは、学寮案内パンフレット「磐陽寮」をご覧ください。

寮の日課（平日）

7：00	起	床	17：30～19：20	夕	食		
7：10～7：45	朝	点	呼	17：30～21：30	入	浴	
7：15～8：15	朝	食	20：00～24：00	自	習		
8：15	登	校	22：00	門	限		
8：30～	H	R・授	業	22：00～22：15	夜	点	呼
12：00～12：50	昼	食	24：00	就	寝		

(2) 寮 費

入寮者は次の経費を必要としますが、下宿代（二食付きで1ヶ月約65,000円）と比較すると非常に安いといえます。

（令和7年度）

寄 宿 料	月額	800円（個室）・700円（2人部屋）
食 費（三食分）	月額	約38,000円（3月を除く11ヶ月）
寮 費	月額	約16,900円（3月を除く11ヶ月）
寮 生 会 費	年額	3,000円

16 卒業生の進路

令和6年度の本校の卒業生は188名で、就職、進学等の内訳は、就職者89名、大学等進学者92名その他7名となっています。

(1) 進 学

本校は、5年間の一貫教育により、優れた人材を育成する完成教育を行っていますが、更に高度な専門分野の勉学を志す人や学術研究者の道に進みたい人のためには、大学や高専専攻科等への進学の道が大きく開かれています。

○福島高専の専攻科

現在、本校には産業技術システム工学専攻、ビジネスコミュニケーション学専攻からなる専攻科が設置されています。本専攻科を修了し、一定の要件を満たした者には大学改革支援・学位授与機構から「学士」の学位が授与されます。令和6年度の卒業生188名の内20名が本校の専攻科に進学しています。

○大学等進学

高専5年在学中（または卒業後）に編入学試験を受験し、合格者は翌年度4月に大学の3年次に編入学する制度で、国・公・私立大学の多くが高専卒業生のために門戸を開いています。

本校では、令和6年度の大学等進学者は92名であり、その多くが国立大学に進学しています。昨年度、本校の大学等への進学率は卒業生全体のおよそ50%となっています。

主な進学先は次のとおりです。

〈主な進学先〉

岩手大学	東北大学	秋田大学	山形大学
福島大学	茨城大学	筑波大学	宇都宮大学
群馬大学	千葉大学	東京農工大学	電気通信大学
横浜国立大学	新潟大学	長岡技術科学大学	信州大学
福井大学	豊橋技術科学大学	三重大学	神戸大学
広島大学	九州大学	東京都立大学	福島高専専攻科

(2) 就 職

文部科学省が令和7年2月1日現在で調査した令和6年度の就職内定率は、大学で92.6%、短期大学で84.9%、大学等（大学、短期大学、高等専門学校）全体では92.1%になっています。

本校では、令和6年度にはのべ7,515の企業から求人があり、就職希望者89名に対する求人倍率は約84倍で、例年就職内定率は100%です。

具体的な就職先は次ページをご覧ください。

〈令和6年度卒業生の進路状況（ ）内は女子内数〉

学 科 別	卒 業 者 数	就 職					進 学 者	その他
		就職者 合 計	求人状況		就職状況			各種学校 自営業 その他
			求 人	倍 率	県 外	県 内		
機械システム工学科	35 (2)	19 (0)	1,731	91.1	14 (0)	5 (0)	14 (2)	2 (0)
電気電子システム工学科	41 (7)	19 (4)	1,762	92.7	18 (3)	1 (1)	20 (3)	2 (0)
化学・バイオ工学科	38 (15)	20 (8)	1,278	63.9	9 (3)	11 (5)	18 (7)	0 (0)
都市システム工学科	40 (16)	18 (10)	1,323	73.5	15 (8)	3 (2)	21 (6)	1 (0)
ビジネスコミュニケーション学科	34 (20)	13 (8)	1,421	109.3	10 (6)	3 (2)	19 (11)	2 (1)
合 計	188 (60)	89 (30)	7,515	84.4	66 (20)	23 (10)	92 (29)	7 (1)

本校卒業生の就職先（過去２年間）

【機械システム工学科】

- 〈令和６年度〉 DMG森精機(株)、ENEOS(株)、NOK(株)、アルプスアルパイン(株)、オリックス・ファシリティーズ(株)
(株)JERA、(株)クレハ（２名）、(株)デンソー、三洋化成工業(株)、常磐共同火力(株)
東京ガスエンジニアリングソリューションズ(株)、富士フイルム(株)
三菱ケミカルアクア・ソリューションズ(株)、三菱電機ビルソリューションズ(株)
雪印メグミルク(株)、ユニ・チャームプロダクツ(株)、(国研)日本原子力研究開発機構
(一社)ONE福島
- 〈令和５年度〉 ANAラインメンテナンステクニクス(株)、NTTコムエンジニアリング(株)、小名浜製錬(株)
海洋技術研究開発(株)、(株)JERA、(株)MBM、(株)クレハ、(株)メンバーズ、(株)日立パワーソリューションズ
カルビー(株)、京セラ(株)、キヤノンメディカルシステムズ(株)、高周波熱錬(株)、サントリー(株)（３名）
常磐興産(株)、東京ガス(株)、東京水道(株)、第一三共ケミカルファーマ(株)、トーテックアメニティ(株)
日立造船(株)、フードテクノエンジニアリング(株)、ファナック(株)、三菱電機ビルソリューションズ(株)
ルネサスエレクトロニクス(株)、(国研)日本原子力研究開発機構（２名）

【電気電子システム工学科】

- 〈令和６年度〉 CTCシステムマネジメント(株)、CTCテクノロジー(株)、JX金属(株)、ウナルテクノロジー(株)
(株)TBSアクト、(株)エヌ・ティ・ティ・エムイー、(株)シグマ、(株)日立ハイシステム21
ビーネックステクノロジー(株)、セコムトラストシステムズ(株)、東京電設サービス(株)
東京電力ホールディングス(株)（３名）、トーテックアメニティ(株)、ネクシオン(株)
横河ソリューションサービス(株)、リニューアブル・ジャパン(株)（２名）
- 〈令和５年度〉 (株)アルファシステムズ（２名）、(株)クレハ、東京電力パワーグリッド(株)
東京電力ホールディングス(株)（２名）、浜松ホトニクス(株)、(株)東日本技術研究所
パナソニックオートモーティブシステムズ(株)（２名）、三菱電機エンジニアリング(株)
(株)ミライト・ワン

【化学・バイオ工学科】

- 〈令和６年度〉 あすか製薬(株)、インターナショナル・ケミカル・エンティティ・ジャパン(株)
(株)浮間化学研究所、大阪ガスネットワーク(株)、(株)クレハ、堺化学工業(株)、昭和産業(株)
成和化学工業(株)、東レ(株)、第一三共(株)（６名）、ファイントゥデイインダストリーズ(株)
富士フイルムワコーケミカル(株)、朋和産業(株)、三井金属鉱業(株)（２名）
- 〈令和５年度〉 JX金属(株)、曙ブレーキ工業(株)、アルプスアルパイン(株)、(株)AXSEED、(株)クレハ（２名）
(株)クレハ分析センター、(株)テルモ、クラウドエース(株)、クリナップ(株)、成和化学工業(株)
第一三共ケミカルファーマ(株)（２名）、第一三共バイオテック(株)、大日精化工業(株)、東洋システム(株)
東レ(株)（２名）、富士フイルムオプティクス(株)、メビウスパッケージング(株)
メルクパフォーマンスマテリアルズ合同会社、理研ビタミン(株)、(国研)日本原子力研究開発機構

【都市システム工学科】

- 〈令和６年度〉 JR東日本コンサルタンツ(株)、鹿島建設(株)、(株)大林組、(株)ザイマックス、
(株)復建技術コンサルタント（２名）、(株)フジタ、(株)東日本建設コンサルタント、五洋建設(株)
清水建設(株)、電源開発(株)、東京水道(株)（２名）、東北電力(株)、日本ファブテック(株)
東日本高速道路(株)、森トラスト・ビルマネジメント(株)、いわき市役所
- 〈令和５年度〉 エヌ・ティ・ティ・インフラネット(株)、(株)セレス、(株)大阪防水建設社
(株)東コンサルタント（２名）、西武建設(株)、東京ガスネットワーク(株)、東京水道(株)（２名）
東京都下水道サービス(株)（２名）、ドーピー建設工業(株)、内藤合同事務所、三菱地所コミュニティ(株)
森トラスト・ビルマネジメント(株)、横浜大一建設(株)（３名）
福島県庁、いわき市役所、（一財）ふくしま市町村支援機

【ビジネスコミュニケーション学科】

- 〈令和６年度〉 JX金属(株)、NOK(株)、エクシオグループ(株)、(株)LOCO、(株)エヌ・ティ・ティエムイー
(株)ディ・ポップス、(株)ネットブレインズ、(株)東日本計算センター、カルビー(株)
キヤノンアネルバ(株)、税理士法人常陽経営、東京ガスネットワーク(株)、日本ビジネスシステムズ(株)
- 〈令和５年度〉 アルプスアルパイン(株)、(株)ACN、(株)アトックス（２名）、(株)TBK、キヤノンアネルバ(株)
クリナップ(株)、東京ガスネットワーク(株)（２名）